

マーケットの動き (2022年3月7日～3月11日)

先週の国内株式市場は、前週末比で下落しました。

週の前半は、ロシアへの経済制裁や原油価格の高騰がインフレを加速させ、世界経済に影響を及ぼすとの懸念が広がり下落しました。10日はOPEC（石油輸出国機構）加盟国による原油増産の思惑から原油価格が急落したことを好感し、日経平均株価は全面高となりました。しかし、米国CPI（消費者物価指数）の高い伸びを受け米国金利が上昇したことから、週末にかけて再び下落に転じました。

投資環境見通し (2022年3月)

国内株式相場は割安感がみられるも、方向感はいにくい

10～12月期の企業業績は堅調で、先行きについても中国景気の底入れに加え、新型コロナウイルスの国内感染拡大が一服すれば、拡大基調は鈍化しながらも維持できるとみえています。一方、株価水準については、米国や欧州に比べ割安感がみられる一方、これらの地域の金融政策正常化のペースに対する投資家の見方はまだ分かれていています。当面の国内株式相場は海外市場の相場動向に影響を受けやすく、変動率の高い状況が続くとみられ、米国や欧州の金融政策に加えてウクライナ情勢を巡る先行き不透明感が残り、方向感はいにくいとみえています。

	3月11日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
TOPIX（東証株価指数）	1,799.54	▲2.46%	▲6.79%	▲14.21%	▲6.51%
日経平均株価	25,162.78	▲3.17%	▲7.08%	▲17.36%	▲13.86%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202203_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目録見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日経平均株価、TOPIXの推移



TOPIX規模別指数の推移



※2021年2月26日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き (2022年3月7日～3月11日)

先週の米国株式市場は、前週末比で下落しました。

ロシアへの経済制裁や原油価格の高騰がインフレを加速させ、世界経済に影響を及ぼすとの懸念が下落要因となりました。しかしながら、良好な米国雇用統計の結果を受けて、経済制裁による米国経済への影響は限定的との見方も台頭し、NYダウの下落は小幅に留まりました。

欧州市場は、先週の下落が大きかったこともあり、原油価格上昇の一服感や停戦交渉進展への期待感から上昇しました。

投資環境見通し (2022年3月)

外国株式相場は、米国、欧州とも方向感に欠ける展開

米国：FRB（米国連邦準備制度理事会）による金融政策正常化のペースや、ウクライナ情勢の先行きが警戒されることから、株式相場は変動率の高い状況にあると考えています。年初からの株価調整を経て、さらなる下値余地は限定的と考えられますが、これまでの過剰流動性に支えられ割高感の強まった銘柄については株価水準の調整や戻り売りが続くこととみられることから、上値余地についても限定的とみています。

欧州：欧州では、米国株式相場の動向に加え、地理的に近く域内経済に対する影響が大きいとみられるウクライナ情勢の動向を注視しつつ、当面は方向感に欠ける展開になるとみています。

	3月11日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
S&P500種株価指数	4,204.31	▲2.88%	▲4.85%	▲5.92%	6.73%
NYダウ	32,944.19	▲1.99%	▲5.16%	▲5.52%	1.41%

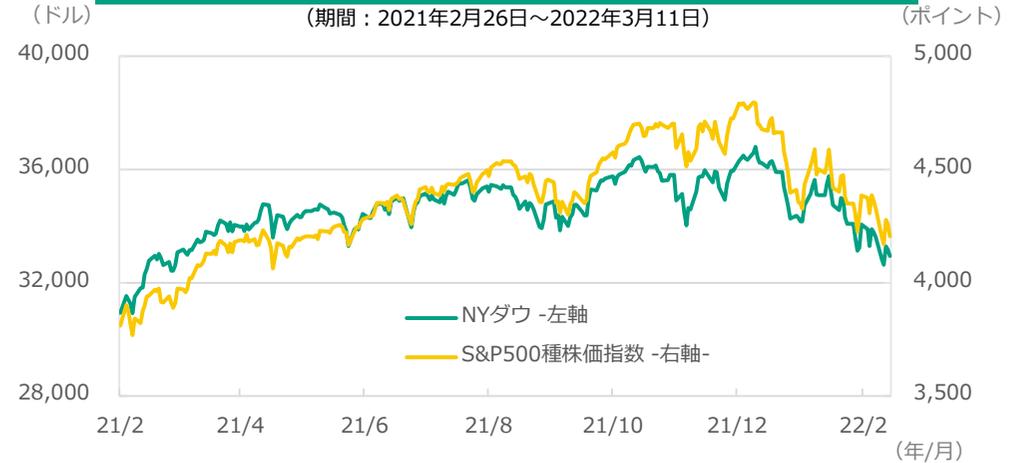
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202203_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

米国株価指数の推移



主要国株価指数の推移



※2021年2月26日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き (2022年3月7日～3月11日)

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。ウクライナ情勢を巡る先行き不透明感から海外金利が低下したことを受けて、国内金利も低下してスタートしました。その後は、インフレ期待の高まりから海外金利が上昇基調で推移したことを受けて、国内金利も上昇して週を終えました。

投資環境見通し (2022年3月)

国内長期金利はレンジ内での動き

国内長期金利は、日銀によるイールドカーブ・コントロールを背景に、当面はレンジ内での動きになるとみています。ただし、主要中央銀行による金融政策正常化の動きがみられ、日銀の将来的な政策変更についても注目されやすく、またウクライナ情勢に対する警戒感もあり、変動率の高まりやすい状況が続くとみています。

	3月11日	変動幅 (騰落率)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り (日本、%) (変動幅)	0.18	0.03	▲0.04	0.14	0.07
NOMURA-BPI総合 (騰落率)	382.11	▲0.26%	0.21%	▲1.50%	▲0.88%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202203_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

(期間：2021年2月26日～2022年3月11日)



NOMURA-BPI総合指数の推移

(期間：2021年2月26日～2022年3月11日)



※2021年2月26日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2022年3月7日～3月11日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

ロシアへの経済制裁や原油価格の高騰がインフレを加速させるとの警戒感から売りが優勢となりました。10日に発表された2月の米国CPI（消費者物価指数）が市場予想を上回る伸びだったことも、金利上昇の要因となりました。

ドイツ国債市場も、インフレ懸念の高まりを受け金利は上昇しました（債券価格は下落）。

投資環境見通し（2022年3月）

長期金利は米国、欧州（ドイツ）ともに方向感に欠ける展開

米国：FRB（米国連邦準備制度理事会）が景気を冷え込ませるほどの拙速な金融引き締めを行うことはないとみており、長期金利は持続的な景気拡大を確認しつつ、緩やかな上昇基調になるとみえます。ただし、当面はウクライナ情勢の動向や、FRBによる金融政策正常化の先行きから長期金利は上下しやすく、変動率が高い状況の中で方向感に欠ける展開を予想しています。

欧州：欧州（ドイツ）長期金利は、ウクライナ情勢や、ECB（欧州中央銀行）による金融政策正常化の先行き、エネルギー価格や物価指標を注視しつつ、方向感に欠ける展開を予想しています。

	3月11日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	2.00	0.27	0.06	0.68	0.48
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	498.43	▲0.11%	▲1.20%	▲2.46%	▲0.66%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

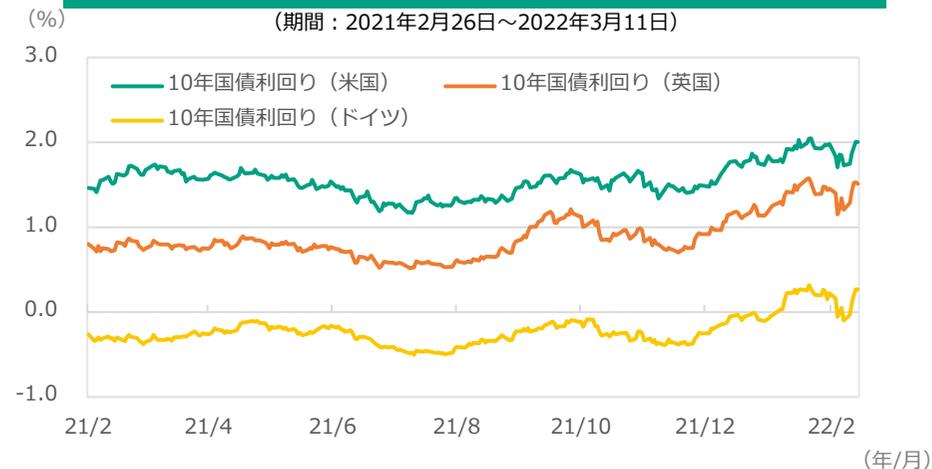
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202203_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2021年2月26日～2022年3月11日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2021年2月26日～2022年3月11日）



※2021年2月26日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2022年3月7日～3月11日）

先週の国内リート市場は、前週末比で下落しました。

週の前半は、ロシアへの経済制裁や原油価格の高騰がインフレを加速させ、世界経済に影響を及ぼすとの懸念から下落基調となりました。10日はOPEC（石油輸出国機構）加盟国による原油増産の思惑から原油価格が急落したことを好感し、反発する場面もありましたが、その後は米国金利の上昇を受け下落に転じました。

セクター別では、住宅セクターが上昇した一方、オフィスセクターや商業・物流等セクターが下落しました。

投資環境見通し（2022年3月）

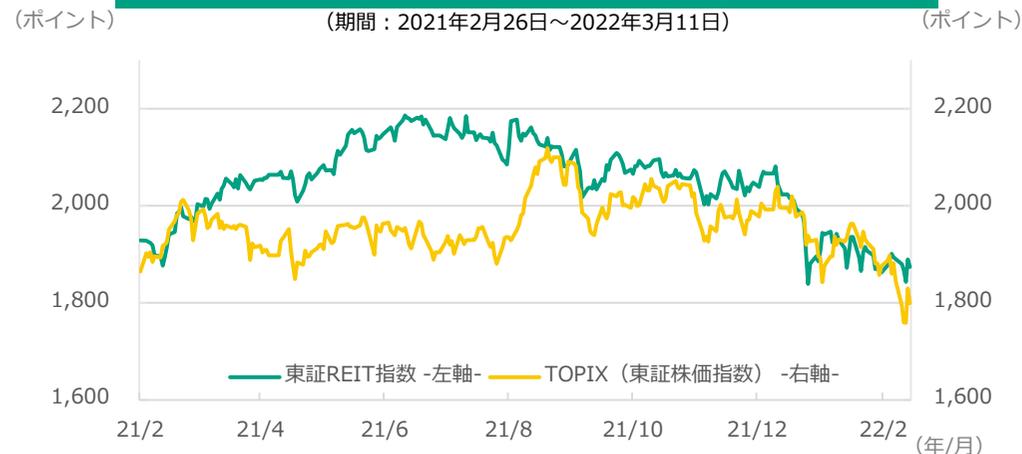
国内リート市場は回復基調を辿ると予想

新型コロナウイルス「オミクロン型」の感染拡大がピークアウトし、水際対策も緩和される中、オフィスや住宅、ホテルは昨年10月以降、稼働率が回復基調にあります。商業施設では賃料支払いの延滞や減免の影響が縮小してきていることから、今後の上昇が期待されるほか、物流では当面堅調な業績が見込まれています。国内リートが全体的に業績回復傾向にある中、市場の割安感は強まっており、国内リート市場は回復基調を辿ると予想しています。

	3月11日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
東証REIT指数	1,874.16	▲0.84%	▲1.03%	▲11.69%	▲2.08%
<ご参考> TOPIX（東証株価指数）	1,799.54	▲2.46%	▲6.79%	▲14.21%	▲6.51%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

東証REIT指数、TOPIXの推移



国内各種資産利回り



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

マーケットの動き (2022年3月7日～3月11日)

先週の為替市場は、米ドルは対円で上昇(円安)しました。

ロシアへの経済制裁や原油価格の高騰がインフレを加速させるとの警戒感から米国金利が上昇した結果、日米金利差の拡大を意識した米ドルの買いが優勢となりました。また、原油価格の上昇に伴う貿易収支の悪化懸念も、円の売りを促しました。ユーロは、対円・対米ドルともに上昇しました。

投資環境見通し (2022年3月)

円に対して、米ドル、ユーロともに緩やかに上昇

米ドル：米国では個人消費の堅調さが確認され、景気の緩やかな拡大基調が続く中、FRB(米国連邦準備制度理事会)は景気に配慮しながら金融政策正常化を進めるとみています。米ドルは円に対して緩やかに上昇するとみていますが、金融政策正常化のペースに対する先行き不透明感や、ウクライナ情勢を巡る警戒感などもあり、当面は方向感に欠ける展開を予想しています。

ユーロ：ドイツではZEW(欧州経済研究センター)景気期待指数が大きく改善したことに加え、行動制限の段階的な緩和から個人消費の回復も予想されることから、景気は緩やかに持ち直すとみています。ユーロは円に対して緩やかに上昇するとみていますが、地理的に近く域内経済に対する影響が懸念されるウクライナ情勢の動向を注視しつつ、当面は方向感に欠ける展開を予想しています。

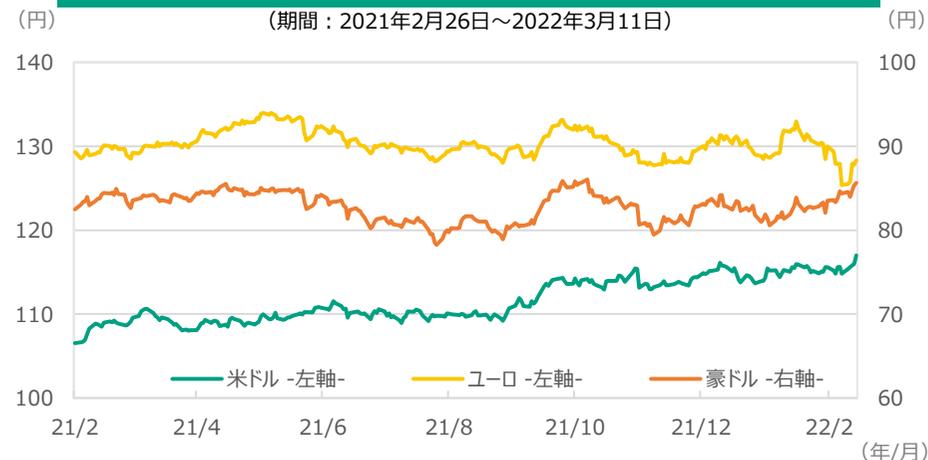
	3月11日	変動幅(円)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	117.00	2.18	1.12	7.07	8.51
ユーロ/円	128.30	2.93	▲3.84	▲1.52	▲1.46

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202203_outlook.pdf

為替レートの推移(対日本円)



為替レートの推移(対米ドル)



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し(総合)の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

使用インデックスについて

●東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所市場第一部＊に上場する内国普通株式全銘柄を対象とする株価指数です。同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、㈱東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、㈱東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

＊東京証券取引所は、2022年4月4日に現在の市場区分を「プライム市場」、「スタンダード市場」、「グロース市場」の3つの新しい市場区分に再編する予定です。当該再編に伴い、記載内容に変更が生じる場合があります。

●東証REIT指数(配当込み)は、東京証券取引所に上場する不動産投資信託全銘柄を対象とした「時価総額加重型」の株価指数である東証REIT指数に配当金等の収益を考慮した指数です。東証REIT指数(配当込み)は、株式会社東京証券取引所(㈱東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、(株)東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

●日経平均株価に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。なお、日本経済新聞社は対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し保証するものではありません。

●NOMURA-BPI総合はわが国の公社債市場全体の動きを捉えたものとして、野村證券株式会社により公表されている指数で、機関投資家等に広く利用されており、野村證券株式会社の知的財産です。野村證券株式会社は当社の個々のファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●その他当資料にて使用したS&P500種株価指数、DAX指数、FTSE100、NYダウ指数の知的財産権、その他一切の権利は、それぞれ、スタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスズ エル エル シー、ドイツ取引所、FTSE社、S&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。